

＜感染症及び食中毒の発生の予防及びまん延の防止＞  
**感染対策の基礎知識と具体策**

～インフルエンザ～

# この研修の目的

- ・ インフルエンザの発生要因を理解し、その予防に努めることができるようになる
- ・ インフルエンザ発生時の対応を学び、症状悪化や二次感染を予防できるようになる

# インフルエンザとは

- ・ インフルエンザとは「インフルエンザウイルス」によって引き起こされる感染症
- ・ 主に**冬季**に流行しますが、新型インフルエンザは夏季にも流行する
- ・ 高齢者がインフルエンザに感染すると、**重症化し、死に至る**場合がある

# インフルエンザと風邪の違い

	インフルエンザ	風邪
発熱	高い(38°C以上となることも)	微熱程度
主な症状	風邪の症状に加え、発熱、関節痛、筋肉痛、倦怠感 など	喉の痛み、咳、鼻水 など
発症	急激に	ゆっくりと
合併症	気管支炎、肺炎 など	ほとんどない
発生状況	流行性(主に冬季)	散发性

# インフルエンザウイルスとは

- ・ インフルエンザウイルスには、大きく分けてA型・B型・C型の3種類がある
  - ⇒ 特に大きな流行は「A型」と「B型」
- ・ インフルエンザウイルスは風邪ウイルスと違い、空気中に漂い**長期間**生存できるため、ウイルスが含まれる空気を吸い込むだけで感染してしまう
  - ⇒ 感染が**拡大**しやすい

# インフルエンザ症状への対応は？

発症から**48時間以内**に「抗インフルエンザ薬」  
を服用する

## ＜抗インフルエンザ薬とは＞

- ・ 症状が悪化しないよう、体内にいるインフルエンザウイルスの**増殖**を防ぐ
- ・ 服用しない場合と比べ、発熱期間が**短縮**
- ・ ウイルスの排出量が減少する

しかし、服用したからといって、すぐに完治する  
わけではない！

⇒ **周りの人に感染**する可能性がある！！

# 介護施設でのインフルエンザ発生例

- ・ 入所者100名中28名と職員7名、計35名がインフルエンザを発症し、80歳代の男性入所者が**死亡**  
⇒ 施設は、「男性の死因は心筋梗塞であり、インフルエンザとは直接関係ない」と説明
- ・ 2週間程度で一気に感染が広がり、適切な対応が図れなかった可能性がある  
⇒ 管轄保健所へ報告、立ち入り検査を実施
- ・ 全入所者、全職員へ**抗インフルエンザ薬の予防投与**を行い、事態が終息するまで、新規入所者およびデイサービス、ショートステイの**受け入れを停止**した

# インフルエンザが発生するとどうなる？

## ①入居者・利用者への影響

- ・ 感染してから**1日～3日**の潜伏期間を経て**急激**に発症  
⇒ 38℃以上の高熱、関節痛、筋肉痛、頭痛、全身倦怠感、食欲不振などの**全身症状**
- ・ その後、咳、喉の痛み、鼻水等の**呼吸器症状**が出現
- ・ 通常は**10日間前後**で症状が落ち着き、治癒する

# インフルエンザが発生するとどうなる？

## ②職員への影響

- ・ インフルエンザは施設内で自然発生しないため、職員（または面会者など）の持ち込みによって感染する可能性が高い
  - ⇒ 正しい**手洗い**の励行や適切な**消毒**が必要
- ・ 個室管理などの対応が必要となる場合は、単純に職員の**労働負担**が大きくなる
- ・ 職員自身も感染の可能性があるため、精神的負担感も発生し、組織の**悪循環**を生み出す要因にもなり得る

# インフルエンザが発生するとどうなる？

## ③施設運営への影響

- ・ マスクや手袋、消毒液などが必要となり、**多額の出費**を伴う

＜一般的な物品購入費用＞

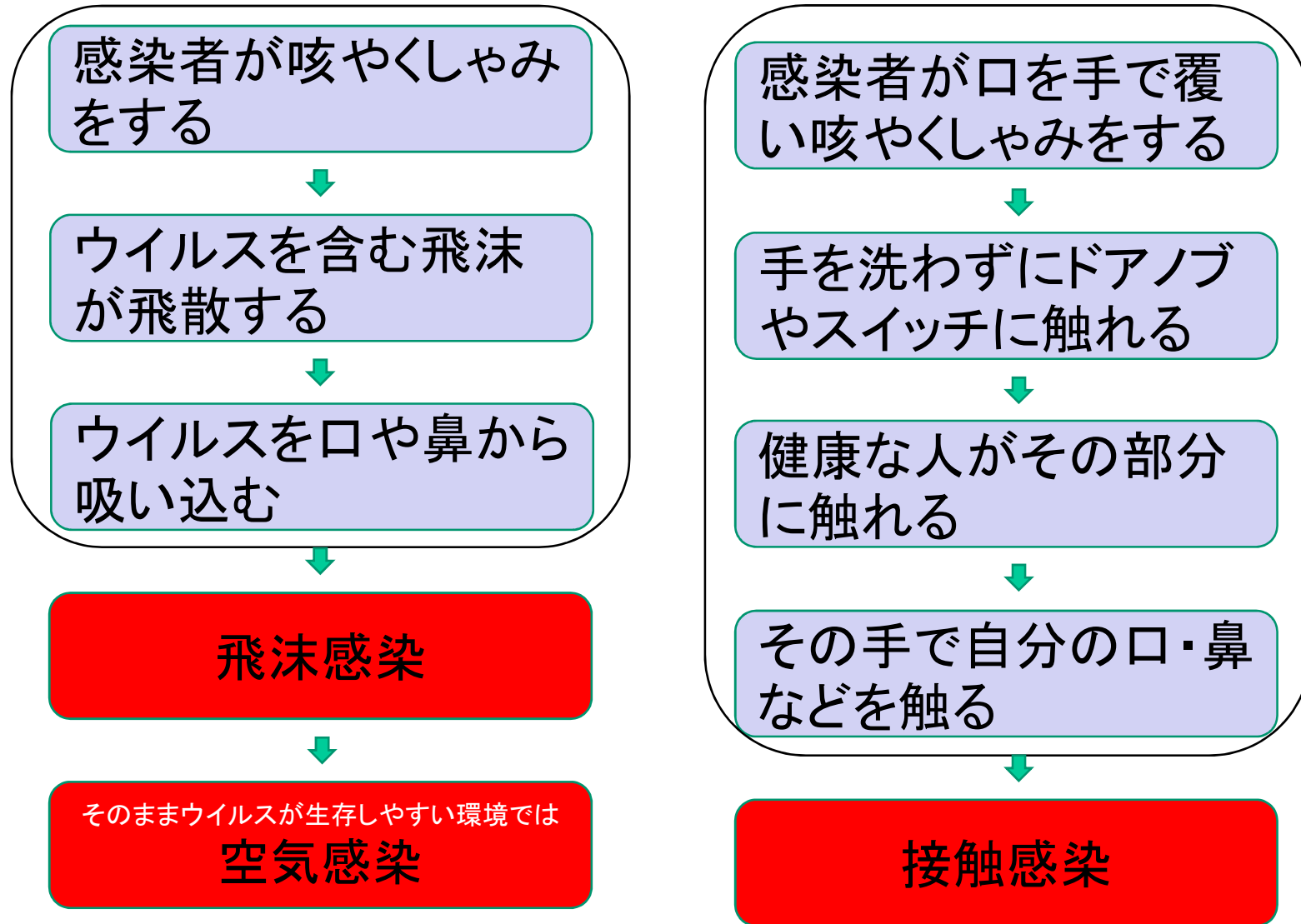
マスク50枚1000円／手袋50枚1,000円

- ・ 新規入所者やデイサービス・ショートステイなどの休止により、**収益**の減少が考えられる
- ・ 保健所からの公表、新聞やテレビで報道などがあると、施設に対する**信用**を失う  
⇒ 以降の運営に大きな影響を及ぼす

# インフルエンザの感染経路と遮断方法

- ・ インフルエンザの流行は、一般的に**児童**からスタートし、**家庭内**での感染を経て、社会全体に広がるといわれている
  - ・ 感染者が触った**ドアノブ**や**スイッチ**などから感染することもある
  - ・ インフルエンザウィルスには、**アルコール消毒**が有効
- ⇒ 流行の時期に限らず、施設内ではアルコールを用いた消毒を行うと良い

# 施設内での感染経路例



# インフルエンザの予防策

- ・ 日頃からスタンダードプリコーション(標準予防策)を徹底する
  - ⇒ 手洗い・うがいが重要
- ・ シーズン前に予防接種を行う
- ・ 流行時期にはできるだけ人混みは避ける
  - ⇒ 外出する際にはマスクを着用する
- ・ 施設内の湿度を50～60%に保つ
- ・ 栄養をしっかりと摂り、体調管理を管理する

# 咳エチケット

- ・ 自身が咳やくしゃみをしている時は**マスク**を着用する
  - ・ 咳やくしゃみをする時、マスクを着用していない場合には、ティッシュやハンカチなどで**口と鼻**を押さえ、他の人から**顔を背け**、離れる
- ⇒ 鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐに**蓋つきのゴミ箱**に捨てる

インフルエンザにいち早く気づくために

## ①観察のポイント

- ・ 施設では、感染症そのものを無くすことは難しい
- ・ 異常の早期発見に向け、入所者の普段の様子を把握しておくことが重要

ポイントは？

- 38℃以上の急な高熱
- 頭痛
- 関節痛
- 筋肉痛
- 喉の痛み
- 鼻水・咳
- 悪寒

◎地域でのインフルエンザの流行も把握しておく！

インフルエンザにいち早く気づくために

## ②報告のポイント

以下に該当する項目が**突然**現れた場合には、  
看護師に相談、医療機関の受診を検討する

1. **38°C以上の高熱**
2. **頭痛**
3. **全身倦怠感**
4. **筋肉痛・関節痛**

さらに

⇒ インフルエンザの人に**接触**したか？

# インフルエンザ予防における 介護職の役割

## 1. 重症化に注意

高齢者は、基礎疾患や免疫力低下により、肺炎を伴うなど重症化することがある

⇒ **重症化のサイン**を見逃さない

## 2. 感染経路の遮断（「飛沫予防策」の徹底）

インフルエンザ（疑い含む）の方と接する時には必ずマスクを着用する

⇒ 感染者は原則として**個室管理**

# インフルエンザ予防における 介護職の役割

## 3. 標準予防策の徹底

流行の有無に関わらず、日頃からスタンダードプリ  
コーション(標準予防策)を徹底する

⇒ **集団感染の防止**に繋がる

感染のリスクを自覚しないまま、**不適切**な行  
為によって**感染を拡大**してしまう事がないよ  
うに、正しい知識と技術を身に付けましょう

お疲れ様でした。

# 参考文献

①政府広報オンライン

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/200909/6.html>

(2018年8月閲覧)

②厚生労働省

「インフルエンザ施設内感染予防の手引き」

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkakukansenshou01/dl/tebiki25.pdf>

(2018年8月閲覧)

③NIID 国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/>

(2018年 8月閲覧)

【教材作成】

社会福祉法人創誠会

特別養護老人ホーム あかり

施設長 渡邊尚太